

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：商工費 項：商業費 目：商業振興費
担当課	ブランド・コミュニケーション戦略チーム 商工労働総務課，海外ビジネス課
事業名	ひろしまブランド推進事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
68	「ひろしま」ブランドの価値向上を推進します。
①	「ひろしま」ブランドの価値向上

目的

「ひろしま」ブランドの国内外での認知・評価を高め、魅力ある地域として選ばれることを目指す。その取組を通じて、持続的な地域経済の活性化や、県民の愛着・誇りの向上につなげていく。また、首都圏はもとより全国に向けひろしまの魅力を発信する拠点としてひろしまブランドショップT A Uの運営を行う。

事業説明

対象者

県民及び県外者，市町，事業者，ひろしまファン等

事業内容

1 ブランド価値の向上

(単位：千円)

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
情報発信	○ 「ひろしま」ブランドの認知・浸透を図るための情報発信 ・ 県民投稿サイト「日刊わしら」の運営 ・ 関係部局と連携したブランドコンセプトの情報発信	28,683	33,592	33,592
食の魅力向上	○ ひろしまの「食の魅力」を向上させるイベント等の実施 ・ 県内外の食関係者による食体験イベントの実施 ・ 料理人コンクールの実施と若手料理人育成の取組	(債務 14,400) 37,071	(債務 14,400) 34,082	33,124
小 計		(債務 14,400) 65,754	(債務 14,400) 67,674	66,716

2 ひろしまブランドショップT A Uの運営

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
店舗運営事業	施設管理運営費 ○ 施設管理・運営 賃料，共益費，光熱水費，通信費等	202,136	200,216	197,431
	ブランド価値向上・情報発信 ○ 3Fイベントスペース等を活用した広島の魅力発信 ・ 広島ファンの増加イベント，県産品・地域資源PRイベントの実施 ・ 店舗の認知性向上のプロモーションとウェブ等を活用した情報発信	22,784	22,784	19,689

販路開拓支援	○ 県産品販路開拓支援 ・ テストマーケティング等による商品力強化 ・ 販路開拓に向けた商談会、プレゼン指導 等	8,365	8,365	7,491
小 計		233,285	231,365	224,611
合 計		(債務 14,400) 299,039	299,039	291,327

成果目標

○ワーク目標：

地域ブランド調査 都道府県魅力度ランキング（ブランド総合研究所）全国順位 8位以内

○事業目標：

T A U売上高 平成30年度実績を上回る額

県産品等の報道件数 1,000件以上、新規取引100件以上

令和元年度実績

[ワーク目標]

都道府県魅力度ランキング（ブランド総合研究所） 15位

指標名		基準値 (平成30年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
ブランド 価値の向上	県民のひろしまに対する愛着度	5位	10位以内	5位
	県民のひろしまに対する自慢度	8位	10位以内	7位
T A Uの 運営	売上高	10.56億円	平成30年度実績を上回る額	9.74億円
	県産品等の報道件数	—	1,000件以上	2,275件
	新規取引件数	113件	113件以上	116件

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 「都道府県魅力度ランキング」は平成30年度の17位から15位に上昇したが、目標の8位以内には届いていない。
- ひろしまブランドショップT A Uについては、新型コロナの拡大に伴い3月に全館臨時休業があったこと、銀座地区全体の来訪者数が減少したことなどにより売上減となった。

令和2年度を取組方向

- 本県の魅力が県内外から支持され、県民の愛着・誇りをさらに高めていけるよう、ブランド価値向上の視点に基づき、様々な事業に取り組む。
- T A Uについては、新型コロナの影響により、首都圏での情報発信力や県産品の販売力の低下が長引いているため、飲食や物販、情報発信機能をさらに強化し、本物のひろしまの魅力を、首都圏を中心とした消費者に向け発信することにより、ひろしまファンの拡大に取り組む。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：スポーツ推進費
担当課	スポーツ推進課
事業名	広島県総合グラウンド改修事業（単県）【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
69	県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。
③	スポーツ・レクリエーションに親しむ環境の充実

目的

広島県総合グラウンド陸上競技場（メインスタジアム）について、公益財団法人日本陸上競技連盟の第2種公認を継続するために必要な改修工事実施設計を行う。

事業説明

対象者

施設利用者

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
○ メインスタジアム改修工事実施設計 ・トラックの改修（オーバーレイ） ・インフィールド芝生の整備（芝生張替） ・用具の整備 等	62,449	24,085	23,737

成果目標

- ワーク目標：総合グラウンドの利用者数 400,000人（平成30年度実績）392,759人

令和元年度実績

[ワーク目標]

指 標 名	基準値 (平成30年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
総合グラウンドの利用者数	392,759人	400,000人	370,518人

- 第2種公認陸上競技場更新に向け、公益財団法人日本陸上競技連盟からの事前指導に基づき、陸上競技場のトラック改修やインフィールド芝生の整備のための実施設計を行った。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- スポーツ教室及びイベント等の開催の拡充やトレーニングルームの環境整備により利用者は増加傾向にあったものの、施設改修に伴う利用中止や、新型コロナの感染拡大防止のための自粛によるアマチュアスポーツ等のキャンセルなどにより、平成30年度と比較し、22千人余の減、目標値の92.6%となり、目標を達成できなかった。
- 第2種公認陸上競技場更新に向けて、実施設計に基づき適切に工事を執行する必要がある。

令和2年度の取組方向

- 新型コロナの感染拡大防止のため、施設の定員に対する制限等が継続され、施設利用への影響が続くことが想定されることから、施設における感染防止に向けた取組を徹底し、利用者が安心して利用できる環境を維持しながら、利用促進に向けたPRや、予約団体の利用意向を定期的に確認し、キャンセル時に迅速な対応を行うなど、利用確保に向けた取組を推進する。
- 公認大会の継続開催や広島県総合グラウンドの利用促進及び安全確保のため、改修工事を実施し、第2種公認陸上競技場としての維持管理を継続していく。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：スポーツ推進費
担当課	スポーツ推進課
事業名	メキシコ選手団等事前合宿受入推進事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。
	④ スポーツを通じた地域・経済の活性化

目的

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、メキシコ合衆国等の選手団の事前合宿を県内各地で受け入れるとともに、合宿を契機とした、スポーツ、経済、文化等、幅広い分野での交流を行い、県域全体の活性化につなげる。

事業説明

対象者

県民，市町，経済界，JOC，国，競技団体等

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
事前合宿の誘致調整	○ メキシコ競技団体による視察の受入 ○ 受入サポート員の配置	19,002	15,454	12,209
事前合宿受入支援	○ 各市町の合宿受入への支援 ○ 通訳ボランティアの確保・研修	63,103	22,697	19,491
県内の機運醸成	○ 機運醸成の仕組の構築 ・ 機運醸成ツールの作成 ・ ホームページの充実・保守	6,620	5,193	4,020
合計		88,725	43,344	35,720

成果目標

- 事業目標：事前合宿にまつわる交流等の活動を実施した市町数 23 市町

令和元年度実績

指標名	基準値 (平成 30 年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
事前合宿にまつわる交流等の活動を実施した市町数	9 市町	23 市町	16 市町

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- メキシコ選手団の事前合宿の一部が延期や見送りとなったことに伴い、選手達と交流する機会が十分に確保できず、合宿地を中心とする活動に留まったため、全市町での交流活動には至らなかった。

令和2年度の取組方向

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期により、令和2年度に予定していたメキシコ選手団の事前合宿についても延期となったが、メキシコ選手団との交流が、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたスポーツ、教育、文化、経済等の多様な分野での県域全体の活性化に繋がるよう、引き続き、各市町や関係団体と連携した取組を進める。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：スポーツ推進費	<table border="1"> <tr> <td>分野</td> <td>豊かな地域づくり</td> </tr> <tr> <td>領域</td> <td>魅力ある地域環境</td> </tr> <tr> <td>施策</td> <td>69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④ スポーツを通じた地域・経済の活性化</td> </tr> </table>	分野	豊かな地域づくり	領域	魅力ある地域環境	施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。		④ スポーツを通じた地域・経済の活性化
分野	豊かな地域づくり									
領域	魅力ある地域環境									
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。									
	④ スポーツを通じた地域・経済の活性化									
担当課	スポーツ推進課									
事業名	FISE ワールドシリーズ広島 2019 開催支援事業 (単県)									

目的

アーバンスポーツ（※）世界大会の広島での開催を支援することにより、本県におけるスポーツ振興、地元経済の活性化及びスポーツと平和の祭典である東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運醸成を図るとともに、若い世代を中心とした世界の人々が広島を訪れ歴史や文化に触れることで、国際平和への願いを共有する機会を創出する。

※アーバンスポーツ

都市の遊びの中から生まれた若者に人気のあるスポーツで、音楽やファッション性を伴い、都市的なイメージを持つ一連の競技群を指す（スケートボードやスポーツライミングなど、東京大会で追加競技となったスポーツを指す言葉として、国際オリンピック委員会をはじめとした国際スポーツ競技団体及びメディアで使用）。

事業説明

対象者

国内外のアーバンスポーツの競技者、県民

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
大会開催支援	FISE ワールドシリーズ広島 2019 を開催する (一社) 日本アーバンスポーツ支援協議会への負担金拠出 【開催時期】平成 31 年 4 月 19 日～21 日 【開催場所】旧広島市民球場跡地	50,000	50,000	50,000

成果目標

- 事業目標：本県におけるアーバンスポーツの振興、地元経済の活性化及びオリンピック東京大会に向けた機運醸成

令和元年度実績

- 「FISE ワールドシリーズ広島 2019」には、県外からの来場者が 2 倍近くに増加したことで延べ 10 万 3 千人が来場し、経済波及効果についても 2018 大会時の約 5 億 5 千万円から約 6 億 8 千万円へと拡大した。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 「FISE ワールドシリーズ広島 2019」の開催により、地元経済の活性化や広島の魅力発信に繋がった。

令和2年度の取組方向

- 令和2年度に開催される「FISE ワールドシリーズ広島 2020」は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会直前の重要な大会であるが、新型コロナの世界的な感染拡大を受けて、開催が延期されていることから、新型コロナの国内外の感染拡大の動静も注視しつつ、来場者、選手、関係者の健康と安全を第一に考えながら、「FISE ワールドシリーズ広島 2020」の開催に向けて慎重に検討を進めていく。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：スポーツ推進費
担当課	スポーツ推進課
事業名	スポーツを活用した地域活性化推進事業【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
69	県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。
④	スポーツを通じた地域・経済の活性化

目的

スポーツを通じた地域・経済の活性化を図るため、スポーツを通じた魅力ある地域づくりの推進、スポーツの成長産業化に取り組む。

事業説明

対象者

市町、スポーツ関係団体、観光関係団体、県民等

事業内容

(単位：千円)

区 分	内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
スポーツコミッション設置準備	スポーツコミッション設置に向けた、関係団体との調整等	2,364	2,364	1,699
アーバンスポーツアカデミーの誘致	アーバンスポーツアカデミーの県内設置に対する補助 【設置目的】 トップ選手の育成・強化、競技人口の拡大・普及等 【設置場所】 県内(借上会場) 【補助率】 定額	16,962	—	—
	合 計	19,326	2,364	1,699

成果目標

- 事業目標：アーバンスポーツアカデミーの県内設置

令和元年度実績

- スポーツを通じた魅力ある地域づくりに向け、県・市町・スポーツ団体等、様々な主体が一体となって取組を進めていくため、その推進組織となる広島版スポーツコミッションとなる「スポーツアクティベーションひろしま」の設立を進めた。
- アーバンスポーツアカデミーの県内誘致については、F I S Eの競技種目のうち、パルクールについて、競技団体と調整を進めた。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 競技団体が、アーバンスポーツアカデミーに係る調整に先行して、「F I S Eワールドシリーズ広島 2020」と連動した、世界初の開催となるパルクール世界選手権の開催に向けた調整を行ったため、アカデミー設置に係る調整は事前調整に留まった。

令和2年度の取組方向

- スポーツアクティベーションひろしまを中心に、県内市町のスポーツを活用した地域活性化の取組を支援するとともに、戦略的な情報発信等を行うことで、スポーツを活用した地域活性化に向けた成功事例を創出していく。
- 新型コロナの影響によりパルクール世界選手権が延期となり、競技団体とのアーバンスポーツアカデミーに係る調整が遅れていることから、パルクール世界選手権の開催を見極めつつ、早期の具体化に向けて、競技団体との調整に引き続き取り組んでいく。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：スポーツ推進費
担当課	スポーツ推進課
事業名	国際スポーツ大会助成事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。 ④ スポーツを通じた地域・経済の活性化

目的

国際レベルのスポーツ大会を広島で開催することで、県民のスポーツへの関心を高めるとともに、世界に向けた広島のPRを行う。

事業説明

対象者

大会主催者，県民

事業内容

(単位：千円)

区分	内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
花キューピットオープン2019 (ジャパンウイメンズオープンテニス2019)	○ 大会開催経費の一部を支援 【開催時期】 令和元年9月9日～15日 【開催場所】 広島広域公園	2,500	2,500	2,500
FIVBワールドカップバレーボール2019男子広島大会	○ 大会開催経費の一部を支援 【開催時期】 令和元年10月9日～15日 【開催場所】県立総合体育館	4,000	4,000	4,000
FIH・シリーズ・ファイナル女子ホッケー8カ国国際大会in広島	○ 大会開催経費の一部を支援 【開催時期】 令和元年6月15日～23日 【開催場所】広島広域公園	5,000	5,000	5,000
	合 計	11,500	11,500	11,500

成果目標

- 事業目標：スポーツを通じた地域・経済の活性化

令和元年度実績

- 本県スポーツの振興・普及に繋げるため、国際レベルのスポーツ大会を開催し、世界トップレベルの競技を観戦する機会を提供した。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 国際レベルのスポーツ大会の持続的な開催に向け、大会主催者に対する開催経費の支援を継続していく必要がある。

令和2年度の取組方向

- 県民のスポーツへの関心を高め、本県スポーツの振興及び競技力向上を推進するため、引き続き、国際レベルのスポーツ大会の開催を通じ、世界トップレベルの競技を観戦する機会を提供していく。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務 項：地域振興費 目：スポーツ推進費
担当課	スポーツ推進課
事業名	パラスポーツ推進事業（一部国庫）【一部新規】

分野	人づくり
領域	多様な主体の社会参画
施策	27 経済的自立に向けた障害者の雇用・就労を促進するとともに、全ての障害者に選択の機会が確保され、あらゆる分野の活動に主体的に参加できる環境の整備を進めます。
	② 障害者の社会参加の機会の拡大
分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。
	④ スポーツを通じた地域・経済の活性化

目的

障害者の健康の保持増進や社会参加を促進するとともに、東京 2020 パラリンピック競技大会に向けた競技力向上のための障害者スポーツの振興を行い、障害者を含む全ての県民が自己の能力を最大限発揮して活躍できる、住みやすく魅力ある共生社会の実現を図る。

事業説明

対象者

県民（障害児（者）を含む）、障害者関係団体等

事業内容

(単位：千円)

内 容		当初予算額	最終予算額	予算執行額
障害者スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者スポーツ体験イベント等による普及啓発・広報【一部新規】 ○ 広島大学病院スポーツ医科学センター等と連携した選手の育成・強化 ○ 障がい者スポーツ指導員等の養成 ○ 広島県障害者スポーツ協会の運営支援 ○ 障害者スポーツ大会の開催 ○ 全国障害者スポーツ大会派遣 	48,736	43,736	37,666

成果目標

○ ワーク目標：全国障害者スポーツ大会の成績[メダル獲得率] 62.3% (平成 30 年度実績)62.3%

令和元年度実績

[ワーク目標]

指 標 名	基準値 (平成 30 年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
全国障害者スポーツ大会の成績 [メダル獲得率]	62.3%	62.3%	—※

※令和元年度は、台風により大会中止

- (一社) 広島県障害者スポーツ協会と連携し、普及啓発や選手の発掘、育成・強化、指導者の育成、競技団体への支援など「裾野の拡大」から「競技力の向上」までの一貫した取組を行った。

普及啓発・広報	各種障害者スポーツ体験会(小中学校・一般向け等)の開催や広報誌の発行、スポーツ用品の貸出、HPの運営等
選手の育成・強化等	広島大学病院スポーツ医科学センターと連携し、強化指定選手に対するメディカルチェックや強化プログラムの作成、障がい者スポーツ指導員の養成、優秀選手等の表彰等
障がい者スポーツ指導員の養成	障害者のスポーツの指導者を育成し障害者スポーツの振興を図るための研修(初級障がい者スポーツ指導員養成研修 年40人)
体制整備	(一社) 広島県障害者スポーツ協会事務局の運営支援

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 全国障害者スポーツ大会予選会の開催又は支援を行い、選手団を派遣したものの、台風のため全国大会が中止となった。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした障害者スポーツ機運醸成の高まりを生かして、「裾野の拡大」から「競技力の向上」までの一貫した取組を推進していく必要がある。

令和2年度の取組方向

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は延期にはなったが、障害者スポーツの機運醸成の高まりもあることから、普及啓発の充実や県内の選手の育成・強化、一般スポーツとの連携による専門的指導等、支援の質・量のより一層の充実と県障害者スポーツ協会の運営体制強化に継続して取り組む。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	都市圏魅力づくり推進課
事業名	都市圏魅力創造事業（単県）【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
	① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

広島都市圏及び備後圏域において、内外の多様な人材を惹きつける魅力と活力ある地域環境の創出に向け、各圏域の中心である広島市及び福山市と連携した取組を推進する。

事業説明

対象者

広島市，福山市，県民等

事業内容

- 広島市都心部（紙屋町・八丁堀地区及び広島駅周辺地区）の中核拠点性の向上を目指して、広島市と連携して取り組む。
- 備後圏域の活性化につながる福山駅前の魅力の向上を目指して、福山市と連携して取り組む。

（単位：千円）

区 分	内 容	当初 予算額	最終 予算額※	予算 執行額
魅力的な 都市環境 形成事業	≪広島市≫ ○ 広島駅周辺地区のまちづくりの推進 ・ 地区の事業者等によるエリアマネジメント活動を支援 ○ 紙屋町・八丁堀地区のまちづくりの推進【一部新規】 ・ 地域主体によるエリアマネジメント活動や体制づくりを支援 ・ 都市再生緊急整備地域における都市開発事業等の促進に係る調査	2,325	2,866	2,758
	≪福山市≫ ○ 福山駅前の再生に向けた機運醸成・人材育成 ・ エリアマネジメントの活性化に向けて、地権者や事業者等を対象としたまちづくりワークショップの開催等を支援	3,500	3,500	3,500
	≪共通≫ ○ 先進事例調査・有識者ヒアリング等	1,533	1,533	818
合 計		7,358	7,899	7,076

※令和元年度6月補正予算を含む。

成果目標

- ワーク目標：多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出
- 事業目標：広島市と連携した取組件数 8件以上（平成27年度以降累計）
福山市と連携した取組件数 2件以上（平成30年度以降累計）

令和元年度実績

[事業目標]

指標名	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
広島市と連携した取組件数	8件	10件
福山市と連携した取組件数	2件	3件

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 広島経済同友会など経済界が中心となって、都心のまちづくりを進めていくため、「ひろしま都心活性化プラン」をベースに、「まちの姿」や「まちづくりのルール」などについての検討を行うひろしま都心活性化推進協議会が発足し、また紙屋町・八丁堀地区において、人中心のまちづくりを目指し、道路空間などを活用した社会実験が行われるなど、多様な主体によるまちづくり活動やエリアマネジメント活動が具体的に動き始めている。
- 福山駅前地区については、再開発に向けて旧キャスパの解体工事が進み、複数の物件でリノベーションが行われる等、再生が目に見える形で進んできており、令和元年度末には「福山駅前再生ビジョン」を具現化するための「福山駅周辺デザイン計画」を福山市が策定した。また、福山駅前アクション会議やエリアプロデュース&マネジメント講座が開催される等、エリアマネジメントの活性化に向けた取組が行われている。

令和2年度を取組方向

- 「ひろしま都心活性化プラン」で描く都心の目指す姿の実現に向け、広島市とともに、県民・市民、地元企業など様々な主体と連携し、民間の投資を呼び込むための仕組みづくりやエリアマネジメント組織の設立支援など、都心の活性化を図る取組を進めていく。
- 福山市との連携事業においては「福山駅前再生ビジョン」、「福山駅周辺デザイン計画」に基づき、福山駅前の再生に向けた機運醸成や人材育成など福山市と連携して取組を推進する。また、福山駅前の旧キャスパを含む三之丸町地区の再生については、福山市や事業者と連携しながら、福山市がビジョンに基づき行う取組について支援を行っていく。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	都市圏魅力づくり推進課
事業名	M I C E 施設検討事業（単県）【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

広島におけるM I C E施設の整備について検討する。

事業説明

対象者

事業者等

事業内容

- 平成30年12月の広島商工会議所からの「広島におけるM I C Eのあり方提言」を受け、広島におけるM I C E施設について、実現可能性調査を実施
 - ・ 県，広島市，有識者等で構成する委員会を設置し，展示面積が10haを超える大規模展示場の実現可能性を検討
 - ・ 国内外の大規模展示場の現状を調査し，大規模展示会やイベント等開催の需要（市場・ニーズ）についての情報収集・分析を行うとともに，運営手法等の諸課題について検討

（単位：千円）

内 容		当初予算額	最終予算額	予算執行額
検討委員会の設置	○ 委員報償費 ○ 委員会運営費 ○ 施設調査旅費	2,987	2,987	2,399
実現可能性調査	○ 大規模展示会の需要（市場・ニーズ）調査 ○ 運営手法等の検討	20,000	20,000	19,995
合 計		22,987	22,987	22,394

成果目標

- ワーク目標：多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出
- 事業目標：M I C E誘致の拡大へ向け大規模展示場の実現可能性を検討

令和元年度実績

- 海外事例を中心とした大規模展示会やイベント等の開催需要をはじめ，大規模展示場の基礎的なデータや運営手法の諸課題を整理し，実現可能性について関係者と議論・検討を行い，新たな大規模展示会の需要見込み，巨額の初期投資，国内大都市との差別化などの主要な課題の解決が困難である見通しから，現時点での着手は見送ることとした。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 大規模展示場の整備着手を見送ることに伴い、一時休止していた広島西飛行場跡地活用推進事業を推進していく必要がある。

令和2年度を取組方向

- 広島西飛行場跡地活用推進事業については、これまで関係者で議論し合意してきた「広島西飛行場跡地利用計画」に立ち返ることとし、速やかに計画に掲げるスポーツ・レクリエーション機能や新たなにぎわいが生み出されるよう取組を進めていく。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：土木費 項：道路橋梁費 目：道路新設改良費
担当課	都市圏魅力づくり推進課
事業名	広島西飛行場跡地活用推進事業(単県)

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
	① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

広島都市圏における高次都市機能集積強化により中枢拠点性の向上を図る。

事業説明

対象者

広島市，民間事業者

事業内容

- 広島西飛行場跡地利用計画に基づき，広島市と共同で関連事業等に取り組む。
 - ・ 跡地活用に必要な交通アクセスの改善に向けた道路整備に係る設計，用地補償，工事等

(単位：千円)

内 容		当初予算額	最終予算額	予算執行額
基幹道路・河川側道路の整備	① 予備設計（河川側道路） ② 用地補償（基幹道路） ③ 工事（基幹道路） ※事業主体：広島市 ※負担割合： 県：市＝1：1	293,500	293,500	112,333 (繰越 181,167)

成果目標

- ワーク目標：多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出
- 事業目標：広島西飛行場跡地の有効活用に向けた交通アクセスの改善

令和元年度実績

- 広島西飛行場跡地の円滑な交通処理の観点から，河川側道路の整備に必要な予備設計，基幹道路の整備に必要な用地補償を行い，基幹道路の工事に着手した。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 跡地活用を円滑に進めていくため，円滑な交通処理の観点から，基幹道路の整備及び河川側道路の整備を引き続き着実に行う必要がある。

令和2年度を取組方向

- 令和元年度に大規模展示場の整備着手を見送ったことに伴い，一時休止していた広島西飛行場跡地活用推進事業については，これまで関係者で議論し合意してきた「広島西飛行場跡地利用計画」に立ち返ることとし，速やかに計画に掲げるスポーツ・レクリエーション機能や新たな賑わいが生み出されるよう取組を進めていく。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：土木費 項：土木管理費 目：建築指導費
担当課	建築課
事業名	福山市三之丸町地区再生促進事業（単県）【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
	① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

県の発展に重要な地区において、まちづくりの中核となる施設を整備することにより、地域の活性化につなげるとともに、県の広域的ポテンシャルの向上を図る。

事業説明

対象者

福山市

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
<p>福山市三之丸町地区の再生の支援</p> <p>優良建築物等整備事業(国庫補助制度)を活用して、「福山駅前再生ビジョン」に基づく地区の再生を図ろうとする市に対し、県内有数の広域交通結節点である福山駅前の広域的ポテンシャル向上の観点から補助する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助対象事業費：住宅部分を除く、調査設計計画費，土地整備費，共同施設整備費 負担割合：県1／6（国1／3，市1／6） <p>※福山駅前地区のまちづくりの推進（地域政策局） エリアマネジメントの活性化に向けた人材育成等 （事業名：都市圏魅力創造事業 要求額：3,500千円）</p>	39,109	19,848	19,493

成果目標

- 事業目標：優良建築物等整備事業による施設整備の取組の着実な実施，解体工事の着手，設計の着手

令和元年度実績

- 解体工事については、令和元年7月に着手し、計画どおり令和2年3月末までに予定出来高(50%)に達した。
- 基本設計については、令和元年7月に着手し、計画どおり令和2年3月に完了した。また、令和2年2月から北棟の実施設計に着手した。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 当初計画に基づき、計画的に実施し、目標どおりの実績となった。

令和2年度を取組方向

- 引き続き、地域政策局及び福山市と連携しながら、予定されている事業が着実に実施されるよう、事業者において毎月開催される予定としている事業推進会議へ参画するなど、事業の進行管理を的確に実施する。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：土木費 項：都市計画費 目：都市計画総務費
担当課	都市計画課
事業名	魅力ある「まちなみづくり」支援事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
	① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

本県における集客・交流の促進など地域の賑わい創出に向けて、魅力ある景観等、デザイン性のある都市空間の形成を図るため、市町が行う魅力あるまちなみづくりを支援する。

事業説明

対象者

魅力あるまちなみづくりに取り組む市町

事業内容

モデル地区*を選定し、市町が行う魅力あるまちなみづくりを、重点的に支援することにより、早期に魅力あるまちづくりを進めるとともに、モデル地区以外の地域への普及を促進する。

*宮島口地区(廿日市市)・街道東城路周辺地区(庄原市)、忠海地区(竹原市)、本町西国街道地区(三原市)

(単位：千円)

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
モデル地区の支援	市町単独では実施が困難なまちづくりの指針となるデザインコンセプトの策定や事業推進体制の確立に向けて重点支援する。 ・ ワークショップの運営支援 ・ デザインコンペ等におけるデザイン審査会の設立・運営	6,049	6,049	6,011
他地域への普及促進	モデル地区の取組状況などを県内の市町と共有することにより、モデル地区以外への普及を促進する。 ・ 類型別の実践モデルの構築(各モデル地区における成果の分析、ニーズ調査、対応策の検討) ・ 県市町勉強会を通じた情報提供【非予算】 ・ 県HPによる情報発信【非予算】	1,400	1,400	1,400
合計		7,449	7,449	7,411

成果目標

○ 事業目標：魅力ある景観に配慮したまちづくりに取り組む地区数 33 地区 (H26～R1 累計)

令和元年度実績

指 標 名	基準値 (平成 26 年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
魅力ある景観に配慮したまちづくりに取り組む地区数	24 地区	33 地区 (平成 26～令和元年度累計)	33 地区 (平成 26～令和元年度累計)

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 4つのモデル地区のうち、宮島口地区（廿日市市）、街道東城路周辺地区（庄原市）及び忠海地区（竹原市）では、策定したコンセプトの実現に向けた取組に対して支援を行った。
- その結果、宮島口地区では、地元商店会により作成された「宮島口まちづくり憲章」に基づき「宮島口まちづくりルール」が作成され、マルシェ等のまちづくり活動が実施されるとともに、景観ガイドラインに沿って屋外広告物の除去等、景観形成の取組が進められた。街道東城路周辺地区では、道路の美装化等のハード整備が進められるとともに、地元協議会により策定された景観ガイドラインに基づき景観保全事業が進められた。忠海地区では地区内への観光客等の回遊性の向上に向けた社会実験が行われた。
- 平成 29 年度に選定した本町西国街道地区（三原市）では、コンセプト策定のため、ワークショップの運営支援を行った。その結果、3回のワークショップを経て、コンセプトがとりまとめられ、市長への提案が行われた。また、コンセプトの実現に向け、まちづくり協議会（準備会）の立ち上げが行われた。
- 今後の他地域への普及促進につなげるため、モデル地区の成果分析や、ニーズ調査、対応策の検討等を行う類型別の実践モデルの構築を行った。

令和 2 年度の取組方向

- モデル地区については、引き続きワークショップの運営支援等を行い、策定したコンセプトの実現に向けたまちなみの景観整備や賑わいづくりの取組を支援する。
- モデル地区以外の県内のその他の地域については、令和元年度にとりまとめたモデル地区におけるこれまでの取組の成果や課題への対応策等を、モデル地区以外のまちづくりに取り組む関係者と共有し、地域間のネットワークづくりを行う「まちなみづくり未来勉強会」を開催し、取組の普及促進を図る。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：土木費 項：都市計画費 目：都市計画総務費
担当課	営繕課
事業名	魅力ある建築物創造事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

本県のブランドイメージの向上を図るため、魅力ある公共建築物の創造・発信や、クリエイティブな人材の育成などを積極的に推進する。

事業説明

対象者

建築関係者（建築家、学生等），県民

事業内容

(単位：千円)

内 容		当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
魅力ある公共建築物の創造・発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島型建築プロポーザル方式の実施 ○ 広島型建築プロポーザル方式の市町への普及、技術支援 ○ 事業成果（宮島口旅客ターミナル・学生チャレンジコンペ等）の情報発信 ・ トークイベント，完成見学会 	3,260	2,651	1,104
民間建築物への波及	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の魅力ある建築物の発信イベント「ひろしまたてものがたり」の展開 ・ たてものがたりフェスタ ○ クリエイティブな人材育成 ・ 建築学生チャレンジコンペ 	135	135	101
合 計		3,395	2,786	1,205

成果目標

○ 事業目標：魅力的な建築物の創出件数（※1） 15件

広島型建築プロポーザル方式による発注件数 県対象 100% 市町 4件以上

- ※1 県内の建築物が有名建築雑誌（※2）に掲載される件数及び県内の公共建築物の公共建築賞（※3）の受賞件数
- ※2 新建築・日経アーキテクチュア
- ※3 地域への貢献が著しく文化性が高い等、優れた公共建築物を表彰

令和元年度実績

指 標 名	基準値 (平成 29 年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
魅力的な建築物の創出件数	年間 13 件	年間 15 件	年間 16 件
広島型建築プロポーザル方式による 発注件数	県 100% 市町 4 件	県 100% 市町 4 件	県 100% 市町 2 件

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 優れた設計者を選定し設計する「広島型建築プロポーザル」が県のみならず県内市町でも継続して実施され、完成した公共建築物が高く評価されるとともに、完成建築物の見学会やトークイベント等の事業成果の取組内容を情報発信することにより、有名建築雑誌への掲載につながり、目標を達成した。

令和 2 年度 of 取組方向

- 今後さらに優れた魅力ある公共建築物を創造するために、多くの優れた設計者がプロポーザルに参加できるよう、対象となる建築物の特性や用途に応じ、プロポーザルの参加条件を検討していく。
- また、魅力ある建築物の創造を民間建築物にも波及させるため、「ひろしまたてものがたりフェスタ」を民間主導の実行委員会方式で実施するとともに、「建築学生チャレンジコンペ」の実施により建築学生に競争の場、活躍の場を提供することで将来を担う人財育成に取り組む。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：交通輸送対策費
担当課	地域力創造課
事業名	公共交通ネットワーク情報提供・移動活発化推進事業 (単県) 【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	71 機能集約による生活拠点の強化と拠点間のネットワーク化などにより、コンパクトで利便性の高いまちづくりを推進します。 ③ 広域的な公共交通ネットワークの最適化

目的

多様な公共交通機関の乗換を総合的かつ高度にシームレス化することにより、公共交通機関の利便性・速達性を大幅に向上させて新規交通需要を創出し、都市交通の活性化を図る。

また、今後とも様々な災害発生が想定される中、県民生活への影響を最小化するため、災害時の通勤通学手段等の確保に向けた災害対応体制の構築を行う。

事業説明

対象者

県民，公共交通事業者，市町

事業内容

(単位：千円)

区分	内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
・乗換課題の解決 ・自己改善に向けたノウハウの蓄積 ・改善策の実施	○ 乗換課題の整理に向けた取組 ・ 移動活発化検討会の継続 ・ 各種交通事業者の連携を促進するセミナーの開催 等	566	566	566
・災害対応体制の構築【新規】	○ 災害時対応体制の構築 ・ 災害時公共交通維持確保マニュアルの作成 ・ G I S ツールの導入	2,917	2,917	2,917
・行動原理醸成のための普及啓発【新規】	○ 災害時の公共交通情報提供の仕組み構築 ・ 臨時運行便の位置情報提供の試験運用等	4,675	4,675	4,643
	合 計	8,158	8,158	8,126

成果目標

- 事業目標：災害時対応を含めた公共交通情報提供の仕組みの構築
G I S ツールを活用した災害時対応体制の構築

令和元年度実績

- 災害時においても公共交通利用者が平時と同様にバスロケ・アプリケーションや乗換検索で臨時運行便を含めて交通情報を閲覧できる仕組みを検討し、関係者と共に試験運用を実施した。
- 災害時の公共交通確保に係る関係機関の意思決定の迅速化を支援するため、G I S ツールを構築した。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 臨時運行便の位置情報の提供を可能にする仕組みの検討と試験運用の実施の次の段階として、災害発生時を想定した実運用の試験・検証が必要である。

令和2年度の取組方向

- 利用者が災害時においてもストレスなく公共交通情報を入手できるよう、令和元年度に検証を行った災害時公共交通情報提供の仕組みについて、災害時の実際の運用を想定した試験・検証を行う。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：商工費 項：観光費 目：観光費	分野 領域 73 施策 ①	豊かな地域づくり
担当課	観光課		瀬戸内
事業名	海の道プロジェクト推進事業（単県）		国内外へのプロモーションや瀬戸内の魅力を体感する環境整備、観光関連サービス、地域産品などのプロダクトの開発誘導の充実に取り組みます。
			①観光ブランド「瀬戸内」の実現

目的

瀬戸内エリアが一体となって「瀬戸内ブランド」を確立することで、交流人口の拡大と地域経済の活性化を推進し、「瀬戸内 海の道構想」の実現を図る。

事業説明

対象者

瀬戸内地域の住民及び国内外の人々

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
瀬戸内ブランドの形成	<ul style="list-style-type: none"> ○ (一社)せとうち観光推進機構(せとうちDMO)の円滑な運営 ○ 広域観光周遊ルート「せとうち・海の道」の形成促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットを活用したマーケティング及びプロモーション ・ 観光プロダクトの開発と販売促進 	41,496	40,200	40,200
観光資産の魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「しまなみ海道」等 県内サイクリングコースの振興とプロモーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 中四国各県と連携した広域サイクリングコースの振興 ・ 県内サイクリングコースの国内外プロモーション 	18,951	13,702	12,485
合計		60,447	53,902	52,685

成果目標

- ワーク目標：首都圏等からの瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合（DMO調査） 50%（令和2年）
瀬戸内7県の外国人延宿泊者数 600万人泊（令和2年）
- 事業目標：首都圏等からの瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合（DMO調査） 44%
瀬戸内7県の外国人延宿泊者数 508万人泊

令和元年度実績

[事業目標]

指標名	基準値 (平成25年)	目標値 (令和元年)	実績値 (令和元年)
首都圏等から瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合	27.9%	44%	30.6%
瀬戸内7県の外国人延宿泊者数	120万人泊	508万人泊	440万人泊

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- せとうち DMO において、米、英、独、仏に設置した現地エージェンシー及びせとうち DMO の情報発信基盤 Web サイト（「SETOUCHI REFLECTION TRIP」）を活用したプロモーション、デジタルマーケティングにより、対象市場におけるメディア露出数や旅行商品造成数はいずれも前年比 2 倍超と大幅に増加するなど、瀬戸内の認知度は確実に高まっている。
- 外国人延宿泊者数は、欧米豪や東南アジアが堅調に伸長した一方、日韓関係の悪化や新型コロナが影響し、目標値を下回った。
- また、瀬戸内の魅力を体感できる観光プロダクトが、各国の旅行者に広く認知され、利用されるための、販売経路の拡大化が課題である。

令和 2 年度の取組方向

- 新型コロナの状況を踏まえ、せとうち DMO と連携し、Web メディアを活用した「安全・安心」情報や観光情報の発信、瀬戸内を体感できる地域産品の掘り起こしなど、国内観光客の増加を図る事業を強化し、首都圏・関西圏における瀬戸内への来訪意向度の向上を目指す。
- また、新型コロナ収束後のインバウンド需要の回復を見据え、引き続き、せとうち DMO において、外国人観光客を対象とする観光プロダクト開発の促進や、現地エージェンシーを活用した情報発信等を行う。
- しまなみ海道を核とした広域サイクリングルートを受入環境整備やプロモーション等について、愛媛県や尾道市などの関係機関と連携して取り組む。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	中山間地域振興課
事業名	ひろしま里山・人材力加速化事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
施策	76 自主的・主体的な地域づくりを支える多様な人材の育成・ネットワークづくりに取り組みます。 ① 地域における「つながり力」の強化と活躍人材の育成・ネットワークづくり

目的

これまで発掘・育成してきた中山間地域の地域づくりリーダーの活動が、将来にわたって主体的かつ継続的に展開されるよう、ネットワークづくりの支援や産学金官によるサポートを行うとともに、新たな人材の育成・確保に取り組み、中山間地域における県民の地域づくり活動の活発化や維持・継続を図る。

事業説明

対象者

県民等

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
<p>機運醸成・新たな人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな活動人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくりのノウハウや手法を学ぶ「ひろしま《ひと・夢》未来塾（第5期）」の開講 ○ 幅広い活動参加に向けた機運醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「里山ココロザシ・カフェ」の開催（ワールド・カフェ方式による地域づくり実践者、参加者による意見交換等） ・ 「ひろしま里山グッドアワード」の実施（里山資源を活かした取組の好事例の表彰と映像化） 	19,376	18,206	17,716
<p>チーム500を活用した活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中山間地域の活動実践者のプラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」の運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ 登録者の地域づくり活動情報の発信 ・ 実践者間の交流促進（交流会など） ○ 新たな活動支援のための環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 産学金官で構成する「さとやま未来円卓会議」による助言 ・ 自立的な活動実践に向けたクラウドファンディング活用支援 ○ 相談窓口「サポートデスク」の運営 	11,072	10,721	10,494
合 計	30,448	28,927	28,210

成果目標

- ワーク目標：地域づくり活動をリードする人材の育成 325人（累計）

令和元年度実績

[ワーク目標]

指標名	基準値 (平成 30 年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
地域づくり活動をリード する人材の育成	294 人	325 人	345 人

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- ひろしま《ひと・夢》未来塾にこれまでニーズの高かった「起業準備コース」を開設したことや、クラウドファンディングの積極的な活用支援による新たなチャレンジ機会の創出を図るなど、これらの事業により発掘・養成した人材に「ひろしま里山・チーム 500」への登録を促すことで目標値を超える登録者数となった。

令和 2 年度の取組方向

- 中山間地域の課題解決に取り組む人材は着実に増えてきており、引き続き、ひろしま《ひと・夢》未来塾等の事業を通じて、地域の課題解決に意欲や関心を持つ層の拡大を図るとともに、地域づくりに主体的に関わろうとする人の発掘や中山間地域での起業を目指す若者を養成するなど、将来を担うリーダーの育成や交流を図る。
- 中山間地域で地域づくりに取り組む人や活動をつなぐプラットフォーム「ひろしま里山・チーム 500」を基盤として、その活動を継続・発展させるため、クラウドファンディングの活用支援による新たなチャレンジ機会の創出やサポートデスクの運営等の側面的な支援を行う。
- また、登録者の活動の継続・発展を図り、活動の質を高めるために、自らの活動内容を発信し、活動者と地域内外の人がつながることができるようチーム 500 のサイトのリニューアルを行う。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	中山間地域振興課
事業名	チャレンジ・里山ワーク拡大事業（単県） 【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
施策	77 多様な人たちが、地域の資源や基盤を生かして、新たな事業にチャレンジできる環境整備に取り組みます。
	② 地域「しごと創生」に向けたチャレンジ支援

目的

廃校舎や古民家等中山間地域の既存施設を活かして企業のサテライトオフィスを誘致しようとする市町を支援し、中山間地域における新しいワークスタイルの定着と企業誘致を促進する。

事業説明

対象者

中山間地域を有する市町、首都圏等のサテライトオフィスを検討する企業

事業内容

(単位：千円)

内 容		当初予算額	最終予算額	予算執行額
関心の高い企業の掘り起し	○ 地方進出に関心の高いターゲット企業への誘致活動の展開	5,280	5,280	5,280
市町の誘致活動に対する支援	○ 市町が民間と連携して行う誘致・受入体制の強化に対する支援	25,200	11,700	10,275
広報展開	○ 進出企業を中心に、中山間地域で働く新しいワークスタイルを効果的に情報発信	3,866	3,492	3,250
合 計		34,346	20,472	18,805

成果目標

- ワーク目標：中山間地域における地域資源を活用した「新しい働き方」実践事例の発現（サテライトオフィス進出企業等） 10件（累計）
- 事業目標：お試しオフィスの利用件数 60社

令和元年度実績

[ワーク目標]

指 標 名	基準値 (平成29年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
中山間地域における地域資源を活用した「新しい働き方」実践事例の発現（サテライトオフィス進出企業等）	—	10件（累計）	10件（累計）

[事業目標]

指 標 名	基準値 (平成29年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
お試しオフィスの利用件数	—	60社	77社

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- マッチング機会での企業の掘り起こしやお試しオフィスの活用により、目標の進出企業数を達成した。
- 働く場所に捉われない I T 企業のサテライトオフィスの進出に当たっては、エンジニアやクリエイターなど進出先における人材確保に向けた取組が必要である。

令和 2 年度を取組方向

- 地方進出に関心の高い企業の掘り起こしや現地視察の受け入れによる、市町の企業誘致活動を支援する。
- I T 企業のオフィス誘致を図るため、進出希望企業と I T 人材をマッチングするための仕組みづくりなどの支援に取り組む。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：衛生費 項：医薬費 目：医務費	分野	豊かな地域づくり
担当課	地域包括ケア・高齢者支援課	領域	中山間地域
事業名	医療施設整備費補助金（一部国庫）【一部新規】	施策	78 安心を支える生活環境づくりについて、市町等と連携して取り組みます。
		①	へき地医療に係る医療提供体制の確保

目的

医療機関の施設及び設備整備を促進し、地域の医療提供体制の維持・充実を図る。

事業説明

対象者

医療機関

事業内容

国の平成 30 年度補正予算を活用し、医療機関の医療機器の整備を支援する。

(単位：千円)

内 容	当初予算額※	最終予算額	予算執行額
訪問診療が必要な人工呼吸器使用患者に対して、医療機関が長期停電時に貸し出せる簡易自家発電装置等の整備に必要な経費を補助	11,340	11,340	883
合 計	11,340	11,340	883

※平成 30 年度 2 月補正予算を含む。

成果目標

- 事業目標：在宅人工呼吸器使用患者の安全・安心の確保

令和元年度実績

[事業目標]

- 11 医療機関が 15 台購入

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 在宅医療を実施する医療機関（946 施設）に通知，県医師会速報への掲載，県ホームページへの掲載による周知を行ったが，事業実施は，11 医療機関に留まった。
- 目標と実績の乖離要因として，事業者負担 1 / 2，購入後のメンテナンス費用が事業者負担であることが考えられる。

令和 2 年度の取組方向

- 国の緊急対策に呼応して，令和元年度のみ実施
- 国の動向や災害時における在宅人工呼吸器使用患者の安全・安心確保状況を注視

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費
担当課	森林保全課・林業課
事業名	ひろしまの森づくり事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
施策	78 安心を支える生活環境づくりについて、市町等と連携して取り組みます。
	④ 森林の公益的機能の維持

目的

県民共有の財産である森林を県民全体で守り育てる事業を推進することにより、県民全体が享受している県土の保全や水源かん養などの公益的機能の持続的な発揮を図る。

事業説明

対象者

市町、森林所有者、住民団体、森林ボランティア団体、企業等

事業内容

区分2～4は【ひろしまの森づくり基金充当】

(単位：千円)

区分	内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
1 基金 積立	○ 「ひろしまの森づくり基金」への積立	864,017	868,839	868,839
2 県補 助金 事業	○ 放置された人工林のうち、県民生活への影響 が大きい森林の間伐 ○ 木造建築物における県産材の利用拡大 等	503,600	399,465	380,035
3 交付 金事 業	○ 里山林における防災・景観保全・鳥獣害対策 等を目的とした森林整備 ○ 森林・林業体験活動、木育活動 ○ 小規模林業経営者、森林保全活動団体、地域 住民団体の育成 等	350,000	347,300	345,079
	〈特認事業枠〉市町等が特に提案して実施する場 合の特別枠 ○ 住民団体による自主的・継続的な森林保全活 動 ○ 土砂災害の恐れがある区域の森林整備や歩道 整備 等	120,000	98,084	97,948
4 県実 施事 業	○ 税の趣旨や事業内容に対する県民理解の促 進、森づくり活動に関心を高めるための広報	22,630	22,630	21,787
合 計		1,860,247	1,736,318	1,713,688

成果目標

○ ワーク目標：手入れ不足の人工林の間伐面積（H23～累計）

(H29実績) 7,236ha (R元目標) 9,250ha (R2目標) 10,400ha

地域資源保全活用事業の実施箇所数（H24～累計）

(H29実績) 33箇所 (R元目標) 45箇所 (R2目標) 50箇所

森林ボランティア活動の延べ人数

(H29実績) 74,630人/年 (R元目標) 78,000人/年 (R2目標) 80,000人/年

県産製材品シェア (H29実績) 17.9% (R元目標) 19.2% (R2目標) 20.0%

○ 事業目標 : 手入れ不足の人工林の間伐面積 1,150ha/年

県産材製品利用量 24,800m³

令和元年度実績

[ワーク目標]

指標名	基準値 (平成22年度)	目標値 (令和2年度)	実績値 (令和元年度)
手入れ不足の人工林の間伐面積 (H23～累計)	990ha/年	10,400ha (H23～R2年度の累計)	8,547ha (H23～R元年度の累計)
地域資源保全活用事業の実施箇所数 (H24～累計)	—	50箇所 (H24～R2年度の累計)	41箇所 (H24～R元年度の累計)
森林ボランティア活動の延べ人数	57,000人	80,000人	78,108人
県産製材品シェア	—	20.0%	17.9%

[事業目標]

指標名	基準値	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
手入れ不足の人工林の間伐面積	—	1,150ha/年	617ha/年
県産材製品利用量	—	24,800m ³	20,601m ³

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 手入れ不足の人工林の間伐面積については、次の要因により、ワーク目標及び事業目標を達成できなかった。
 - ・ 所有者の特定ができない森林や境界が不明な森林については間伐が実施できず、事業実施に同意しない所有者の割合も高まっていること
 - ・ 平成30年7月豪雨災害により作業道が被災し、間伐実施が進まなかったこと
- 地域資源保全活用事業については、市町担当者に対して、事業趣旨などの理解につながる情報提供等が十分でなかったことにより、地域の森林を守る意思のある団体からの相談等に応えられなかったことなどから、実施箇所数が累計目標の45箇所に対して、実績が41箇所となった。
- 森林ボランティア活動の延べ人数については、各種媒体を活用した、ひろしまの森づくり事業の広報活動などにより、目標を達成した。一方で、各ボランティア団体が今後も自主的・継続的な活動を行うためには、各団体が活動を自ら改善していくための仕組みづくりが必要である。
- 県産材製品利用量については、平成30年度実績19,139m³から1,462m³増加し、20,601m³となったものの、建築会社の新規参入を十分に獲得できなかったことから、目標の24,800m³に対し、83%の達成率となった。

令和2年度の取組方向

- 手入れ不足の人工林の間伐については、次の取組を進めることで、実施箇所の掘り起こしを行う。
 - ・ 森林所有者の探索や境界明確化に必要な経費を助成する事業推進費について、市町等の事業主体へ一層の周知を図ることによる活用の促進
 - ・ 被災した作業道の補修など、対象事業地の確保に向けた事業の推進
- 地域資源保全活用事業については、地域の森林を守る意思のある団体の多様な要望に対し、市町担当者が適切に対応できるようにするため、県が開催する市町担当者会議において各市町事例を共有する場を設け、担当者の事業理解を深める。
- 森林ボランティア活動については、引き続き、各種媒体を通じた広報活動を実施するとともに、ボランティア団体に対し他団体の活動状況などの情報を積極的に提供することにより、団体の相互連携を進め、更なる活動の活性化を促す。
- 県産材製品利用量については、令和2年度の目標 25,000 m³の達成に向け、製材工場、住宅建築会社などの木材関連事業者から需給情報を定期的に把握し、住宅建築会社へ個別訪問を行うなどにより、新規参入の掘り起こしを進める。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：総務管理費 目：国際交流費	分野 豊かな地域づくり 領域 平和貢献	核兵器廃絶のメッセージを継続的に発信するとともに、核軍縮・不拡散プロセスの進展への取組を促進します。
担当課	平和推進プロジェクト・チーム		
事業名	国際平和拠点ひろしま構想推進事業（一部国庫） 【一部新規】	施策	79 核兵器廃絶に向けたプロセスの進展
			80 復興・平和構築のための人材育成と研究集積を促進します。
			① 平和構築のための人材育成
			81 持続可能な平和支援メカニズムを整備します。
			① 持続可能な平和支援メカニズムの構築

目的

世界中のリーダーや研究者、NGO など、幅広い人材や情報・知識、資金などの資源を広島に集め、結びつけ、つなぐことにより、核兵器廃絶や復興・平和構築などの分野の研究や活動が活発に展開される「国際平和拠点ひろしま」を実現することを通じて、平和で安定した国際社会の実現に貢献する。

事業説明

対象者

各国政府、県民、大学、NGO、財団、国連等の国際機関等

事業内容

(単位：千円)

		内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
核兵器 廃絶	ひろしまラウンドテーブル開催事業	北東アジアの核軍縮に焦点を当てた円卓会議の広島開催	24,936	24,695	23,471
	ひろしまレポート作成事業	各国の核軍縮・不拡散の取組状況を調査・研究し、取りまとめ			
	(仮称) 広島核廃絶アカデミー開催事業	国際的NGOと連携した核廃絶の担い手となる人材の育成講座の試行【新規】			
復興・ 平和構築	平和構築人材育成強化事業	高校生を対象にした国際平和貢献人材育成プログラム「グローバル未来塾 in ひろしま」の実施 オンライン平和講座の開講等	14,415	13,590	10,508
	ひろしま復興・平和構築研究事業	広島の復興プロセス研究を基にした教材の活用促進			
	ひろしま研究・教育機関連携強化事業	県内平和関連機関によるネットワークの連携強化に向けた情報交換、情報発信			

持続可能な平和支援メカニズム構築	拠点構想推進事業	国際平和拠点ひろしま構想推進委員会の開催等 NPT 運用検討会議準備委員会への参加（シンポジウムの開催、メッセージ発信）等	112,380	106,806	87,944
	研究拠点形成推進事業	海外研究機関との共同研究の実施やその充実のための（仮称）核軍縮研究国際ネットワーク会議の開催【一部新規】			
	国際会議開催・誘致事業	国際平和のための世界経済人会議開催			
	センター機能強化事業	2020年（被爆75周年）記念行事の開催準備やウェブサイトの構築等を通じた広島の実組への賛同者の拡大【新規】			
合 計			151,731	145,091	121,923

成果目標

- 事業目標：海外メディア，研究機関等からの発信 10 機関
県が作成した資料などを活用し平和を学ぶ人数 目標 20,000 人（H30～R 元累計）
（仮称）核軍縮研究国際ネットワーク会議の立ち上げ

令和元年度実績

- 海外メディア，研究機関等からの発信

指 標 名	基準値	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
海外メディア，研究機関等からの発信	—	10 機関	6 機関

- 県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数

指 標 名	基準値 (平成 29 年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)
県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数	4,864 人	20,000 人 (H30～R 元累計)	17,340 人 (H30～R 元累計)

- 核抑止に替わる新たな安全保障アプローチづくりに向け、世界のトップレベルの研究機関との共同研究の充実を目指した「核軍縮研究国際ネットワーク会議」を立ち上げた。

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- ひろしまラウンドテーブルにおいて、議長声明に加え、緊急アピールを発出するなど、昨今の核兵器を巡る危機的な情勢を踏まえた取組を実施したものの、参加者の個別の発信について、共通の認識を醸成するに至らなかった点に加え、開催予定であった軍縮に関する国際会議に、新型コロナの影響により、参加できず、また中止となった国際会議もあり、発信する機会が減じた。
- 海外からの研修生や県内大学の講義をはじめとして、オンライン講座の英語版や国際平和拠点ひろしまウェブサイト内でのオンライン講座の開設、広島－I C A N アカデミーの開講や、様々な

会議での講座等を開催することにより、学ぶ人数自体は増加したものの、目標としていた人数には至らなかったため、平和を学ぶ必要性が広く一般に認知されるための、効果的な情報発信が必要である。

- 核抑止に替わる新たな安全保障アプローチづくりに向け、世界のトップレベルの研究機関との共同研究の強化を目指した「核軍縮研究国際ネットワーク会議」を立ち上げた。

令和2年度 of 取組方向

- 被爆・終戦75周年という世界の注目が集まる絶好の機会を契機として、国際的NGO「ICANN」と連携した人材育成講座「広島－ICANNアカデミー」の実施、世界的に影響のある経済人等を招いて開催する「世界平和経済人会議」や、すべての国連加盟国の高校生を対象とした「ひろしまジュニア国際フォーラム」など様々な取組を、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、オンライン等も活用して実施するほか、情報発信力の強化を図るため、ウェブサイトのコンテンツの充実と積極的なプロモーション等を行い、平和の取組への賛同者拡大を図る。
- 東アジアの核軍縮・軍備管理に焦点を当てた多国間協議である「ひろしまラウンドテーブル」を実施するとともに、これまでに引き続き、核軍縮研究国際ネットワーク会議を中心として、核抑止に頼らない新たな政策づくりを進めるため、連携協定を締結した研究機関と共同研究に取り組み、その成果を様々な機会を捉え、国連や各国政府関係者等へ核兵器廃絶に向けた取組の強化を継続的に働きかけ、核軍縮に具体的に貢献していく。
- 被爆の実相と核軍縮、復興・平和構築について学ぶことのできるオンライン講座等の教材を幅広く世界の若者に学習機会を提供することで、平和の担い手としての人材育成を進め、また、国際機関、研究機関、経済界、NGO等、様々な機関とのネットワークを具体的な取組へと充実させることにより、平和に関する人材、知識・情報、資金などを集積し、平和に関する拠点性の向上につなげるため、平和の取組を推進するメカニズムの構築を目指す。

令和元年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：総務管理費 目：国際交流費
担当課	国際課
事業名	ひろしまジュニア国際フォーラム開催事業(単県)

分野	豊かな地域づくり
領域	平和
80	復興・平和構築のための人材育成と研究集積を促進します。
①	平和構築のための人材育成

目的

海外から高校生を招聘して、日本人高校生と国際平和についての討議や交流等を行い、平和のメッセージを世界に発信するとともに、国際的な相互理解を深め、次代の人材育成と国際平和拠点性向上に資する。

事業説明

対象者

外国人高校生，日本人高校生，留学生及び一般県民

事業内容

○ 海外及び日本人高校生による国際会議を開催し，国内外に情報発信する。

(単位：千円)

内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
○ ひろしまジュニア国際フォーラムの開催			
1 開催時期 令和元年8月20日(月)～23日(木)			
2 実施場所 広島国際会議場ほか			
3 テーマ 平和な世界の実現に向け私たちができること (核兵器廃絶と復興・平和構築に向けた取組)			
4 プログラム			
8月20日 オリエンテーション，平和記念資料館見学，慰霊碑参拝，被爆証言聴講，チームビルディング，基調講演，グループディスカッション	15,210	14,272	14,266
8月21日 県内留学事情紹介，グループディスカッション			
8月22日 県内視察，お好み焼き体験，グループディスカッション			
8月23日 報告会・広島宣言発表〔一般公開〕			
合 計	15,210	14,272	14,266

成果目標

○ 事業目標：広島の国際平和拠点性の向上

令和元年度実績

○ 参加者 高校生・留学生 計88名

・外国人高校生	31名
・日本人高校生	51名
・県内留学生	6名

(海外高校生の招へい国・地域：31の国・地域)

友好提携先からの招へい	中国・四川省, アメリカ・ハワイ州, メキシコ・グアナフアト州	
海外県人会からの招へい	ボリビア	
広島県内に留学生が多い国(地域)からの招へい	海外から	ベトナム, 韓国, 台湾, ミャンマー, マレーシア, ネパール, カンボジア, インド, フィリピン, モンゴル, ラオス, スリランカ
	国内から	アルゼンチン, ハンガリー, エストニア, スイス, フランス, ドイツ, フィンランド, ブラジル, タイ, スウェーデン, アイスランド, チェコ, オーストラリア, ノルウェー, スロバキア

- 基調講演等来場者 約 250 名

令和元年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 海外 31 の国・地域の高校生と日本人高校生がともに、平和メッセージとしての「広島宣言」をとりまとめ、国連や外務省、駐日外国公館などの関係機関に届けるとともに、インターネットを通じ、国内外に発信することができた。
- 被爆 75 周年の節目である令和 2 年度については、参加国を大幅に増加させるなど、発信力の一層の強化に取り組む必要がある。
- また、今後は、平和メッセージの発信に加え、参加者の人材育成の観点から、参加者が帰国した後も世界平和に向け、これまで以上に主体的な活動を行うよう、取組を強化する必要がある。

令和 2 年度を取組方向

- 国際平和に寄与する人材育成のため、参加者のフォローアップを一層強化する。
- 世界的に新型コロナの感染が拡大する状況にあるが、被爆 75 周年の節目の年に、広島国際平和の取組を世界に発信することは大きな意義があることから、令和 2 年度はオンライン形式で開催し、システム上の制約等を踏まえつつ適正な規模や内容で実施する。